

1 今年度の取組目標等に関する自己評価

(1) 教育活動への取組と自己評価

【学習指導】

- ・ 学力スタンダードに基づき、指導と評価の改善を繰り返しながら、生徒にわかる喜びや学ぶ意義、また、入学前より学力が向上したと実感させられる授業の創造に向け、教科会や教科主任会を充実させ、組織的な学習指導に取り組んだ。
- ・ 大学進学に向けた学力を身に付けさせるため、前年度まで都教育委員会から受けていたアクティブ・ラーニング推進校としての研究・取組成果を日々の学習指導に生かすことができた。生徒への調査で肯定的評価の割合は、「分かりやすいか」87%、「授業に工夫を感じるか」97%だった。
- ・ アクティブ・ラーニングの視点を取り入れた授業やICT機器を活用した授業実践により、わかる授業を味わわせ、生徒の学びに向かう力や学びへの興味と努力し続ける意志を喚起させ、学力の一層の伸長を図った。年間5回の外部模試結果からは上位層の増と下位層の減を確認することができた。
- ・ 今年度は過去2年間に比し、オンライン学習等による自宅学習を適時、取り入れるなどしながら、感染症予防と学びの継続に努めることができた。

【生活指導】

- ・ いじめ対策防止基本方針に基づき、いじめの実態把握調査を計画的に実施し、いじめの未然防止、早期発見、早期解決に組織的に取り組むことができた。
- ・ 卒業後の社会生活を見据えた基本的な生活習慣の確立と挨拶ができる社会人として成長し続けられる能力や態度を育む指導を進めてきた。
- ・ 服装・頭髪等の身だしなみ指導を生徒・保護者はもとより第三者にも誤解されることのないよう留意しながら、適切かつ丁寧に取り組んできた。
- ・ 授業規律の保持・徹底を継続してきた。教員のチャイム前入室や授業中の不要物を放置させない指導にも取り組めており、清潔かつ落ち着いた学習環境は保障できている。
- ・ 遅刻防止の指導は、生活指導部が学年とも協働して登校形態の変化にも応じながら取り組んできた。しかし、顕著な成果には結びつかなかった。

【進路指導】

- ・ 本校の進路指導体制を見直し、再構築することができた。
- ・ 定期考査とは別に「実力診断テスト」等の受験機会を年間5回設けた。進路指導部主導により受験機会を活用した新たな学習スキームを整えた。このことにより、生徒の学力向上だけでなく希望進路や進路実現に向けての考え方や意欲に変容を見取ることができた。
- ・ 進路指導部と学年が連携し、最後まで「諦めさせない指導」を実践できた。大学・短大等進学者は年度目標（数値目標）を達成できた。

【特別活動・部活動】

- ・ 学校の生活リズムは不規則であったが、ホームルーム活動の充実に努め、生徒の学校への帰属意識の醸成に取り組むことができた。
- ・ 部活動可能期間においては、部活動と学習の両立を図るため部活動単位による勉強会を奨励し、一部の部活動では実施することができた。
- ・ 感染症対策の一環として、校地内のゴミ箱不設置を継続した。ゴミを出さない（ゴミは持ち帰る）指導の継続により、生徒は自発的に感染症予防に取り組んだり、ホームルーム教室の環境を整えたりする態度や能力を身に付けることができた。
- ・ 東京都オリンピック・パラリンピック教育実施方針に基づき、「重点的に育成すべき5つの資質」の育成に取り組むことができた。

【健康・安全】

- ・ 自転車運転に係る被害者・加害者にさせないため「自転車安全利用五則」の徹底について指導するとともに、感染症対策を講じた上で、オンラインを併用しながら交通安全教室を実施した。
- ・ スクールカウンセラーによる1年生全員面談やアセスメントテストの実施とその分析、更に生徒情報交換会の開催を通して、生徒一人一人の実態把握に努め、学習不振や学校不適応、いじめの早期発見・早期解決等に生かしてきた。
- ・ 薬物乱用防止講話は、実施形態を工夫して実施した。前年度実績を踏まえ、ホームルーム教室においてオンラインにより、教材を視聴するなどして学ばせることができた。
- ・ 特別な支援が必要な生徒への対応力を高める研修会や生徒情報交換会は、職員会議や教育相談委員会の機会を活用するなどしながら計画的に実施することができた。
- ・ 保健だよりを年間6回発行した。各号の発行を通して、生徒や保護者に向けて、感染予防・感染対策についての意識啓発や感染拡大防止に資する協力依頼ができた。

【募集・広報活動】

- ・ 学校見学会・説明会を5回、臨時の説明会・相談会を1回、この他、秋以降は平日放課後の学校見学会を実施してきた。しかし、「学力検査に基づく選抜（第一次募集）」における応募人員は募集人員を下回る結果となった。
- ・ 授業公開週間は6月と11月の2回設定した。2年連続中止を回避すべく、感染症対策を徹底した上で実施することができた。
- ・ 学校ホームページは、見やすさを意識してリニューアルした。各種情報は、学校ホームページの他、新たに「葛飾野新聞」を作成・配布し、主に近隣区中学校や学習塾等に向けた広報にも取り組むことができた。
- ・ 都立学校開放事業は、東京都教育委員会の指導に基づき適切に対応してきた。

【学校経営・組織体制】

- ・ 企画調整会議を中心とした組織的学校経営を推進してきた。管理運営規程に基づく学校運営の徹底を通して、組織的な業務遂行と諸課題の解決に取り組んだ。
- ・ 職員会議の定刻開始と予定時間内終了、定期考査や各種調査へのマークシートの導入等により教員のライフ・ワーク・バランスの実現を目指した。他にも学校独自の取組として「学校定時退庁日・マイ定時退庁日の設定」、「『ノー残業』強化ウイーク（40日間）の設定」など取組可能な対策を推進してきた。しかし、在校時間の減少等の顕著な成果に結びつくまでには至らなかった。
- ・ 経営企画室の学校経営参画機能の充実に努めてきた。次年度も引き続き、行政系職員と教員との相互連携をより一層高め、組織的な対応が可能となる体制を整えていく。
- ・ 施設・設備の老朽化が顕著なため、定期的な点検と必要に応じた環境整備に取り組んできた。
- ・ 主幹会議は、学校経営上の課題について検討し、解決に向けた方策を立案、進言させることができた。
- ・ 服務事故防止研修の実施を通して体罰の根絶はもとより服務事故全般の未然防止を図ってきた。

(2) 今年度の「数値目標」の実績

【学習指導】

数値目標	実績
「授業外学習時間一日 60 分以上」習慣確立 40%	40.5%
部活動単位での勉強会（週 60 分以上）実施 5 団体以上	2 団体
長期休業日等における補習・講習を 50 講座以上	60 講座
授業力向上に資する校内研修を年 20 回以上実施	24 回
外部模試等の実施に合わせた「学年集会を核とした進路指導」各学年とも年 3 回以上	1、2 年 4 回、3 年 3 回
現役四年制大学・短期大学進学率 40%以上	54.8%
進路未決定者（進学準備等を除く）4%以下	2.3%
1 日あたりの遅刻者数 15 人以下	33 人
部活動加入率 72%以上	70%
学校ホームページ及び学校公式 Twitter の合計更新回数年間 220 回以上	312 回

2 次年度以降の課題と解決に向けた方策

(1) 学習指導

- 課題**
- ・生徒の学力向上、基礎・基本の徹底と発展・応用の充実
 - ・授業外学習時間の習慣化
- 方策**
- ・アクティブ・ラーニングの視点を取り入れた授業改善
 - ・授業力向上のための授業研究、校内研修や教員相互の授業参観等を継続
 - ・令和 3 年度までの「土曜授業」に代わる新たな学力向上施策の推進
 - ・全学年実施の「朝学習」の継続
 - ・定期的な授業外学習習慣調査の実施

(2) 生活指導

- 課題**
- ・自己指導能力を身に付けさせる生活指導の更なる工夫
 - ・規範意識の醸成
 - ・遅刻防止の徹底
- 方策**
- ・生命及び人権尊重の理念に基づく生活指導の徹底
 - ・社会や学校において他者と集団生活を送る上で必要なルール、マナー、モラルを身に付けさせ、確かな自己指導能力を醸成
 - ・遅刻防止、身だしなみ、装飾品や化粧への指導、頭髮・服装指導の徹底を継続
 - ・校則見直しの機会を通して、校則は学校生活を送るに当たり、必要かつ合理的な範囲で、定める学習上・生活上の規定であることへの理解を深めさせることにより、一層の規範意識の醸成と卒業後に求められる社会性を身に付けさせる。
 - ・学校の指導方針について保護者への十分な周知

(3) 進路指導

- 課題**
- ・進路指導部主導による指導体制の定着と質的向上
- 方策**
- ・キャリア教育を核とした進路指導計画と指導実践
 - ・「学年集会を核とした進路指導」「丁寧な個人面談」の定着
 - ・進路指導部主導による定期的な学力分析会実施の継続
 - ・進路指導部主導により長期休業日中等の補習・講習を他分掌等と連携協力しながら企画・運営

(4) 特別活動・部活動

課題 ・ 帰属意識の醸成

- ・ 集団や社会の一員としてよりよい生活を築こうとする自主的・実践的な態度の育成
- ・ 規律ある行動実践に努めようとする能力や態度の育成

方策 ・ 工夫ある特別活動・部活動の実践

- ・ 学校行事や生徒会活動、部活動等に生徒が主体的に取り組み、達成感や自己有用感を味わわせる指導の工夫
- ・ 部活動は、文化系・運動系を問わず東京都の方針（部活動の在り方に関する方針）に基づき実施する。特に、休養日や活動時間については一層の改善を図り、合理的でかつ効率的・効果的に取り組むこととする。

(5) 募集・広報活動

課題 ・ 「学力検査に基づく選抜（第一次募集）」当初募集人員を上回る最終応募人員の確保

方策 ・ 学校見学会・説明会のプログラムの見直し

- ・ 学校案内、学校ホームページの工夫改善
- ・ 近隣区中学校（葛飾区・足立区・江戸川区等）への郵送等による広報活動

(6) 学校経営・組織体制

課題 ・ 学校経営計画の具現化

- ・ 教職員の L・W・B の推進
- ・ 今年度まで東京都教育委員会から指定を受けていた各種指定校事業の取組成果を最大限に生かした教育活動の実践

方策 ・ 企画調整会議を中心とした学校経営の推進

- ・ ミドルリーダー、若手教員育成の推進
- ・ L・W・B の推進に向けた各種取組の推進
- ・ 校務遂行の効率化を目指し、引継書等作成・保存の徹底
- ・ 各種指定校事業指定期間に実践してきた種々の教育活動の継続